

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)
難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年に引き続き、全設問が学部独自のもので、他学部との共通問題はなかった。また大問 I は昨年は一つの英文に下線が 3 カ所引かれる形式だったが、今年是他学部同様、2 つの英文にそれぞれ下線部が 1 か所あるという形式に変わった。従来通り、試験時間から考えると、記述量は非常に多い。

その他トピックス
なし。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I (A)	英文解釈 (96 words / 下線部 57 words)	AI に起因する、電 気の大量消費と廃 棄の問題	阪大にしては抽象性が低く、英文の意味を把握すること自体は容易だったであろう。答案の成否を左右するであろうポイントは以下の通り。charging の語彙知識 / exchange の意味判断 / so ... that ~ 構文の把握 / soar の語彙知識(あるいは文脈からの意味判断) / annually の語彙知識。	やや易
I (B)	英文解釈 (120 words / 下線部 66 words)	ヴィクトリア朝時 代の英国の急速な 変化	やはり英文の抽象性は高くはなく、内容の把握は容易だったと思われる。(A) と同様、答案の成否を左右したと思われるポイントを列挙しておく。come to terms with の文脈に合った訳語選択 / 「限定」を表す in の用法判断 / 「対比」を表す while の用法判断 / depict A as B の語彙知識。	やや易
II	読解総合 (1278 words)	希望 — 祝福か、 あるいは呪いか	論旨のはっきりした英文で、大阪大学外国語学部の英文としては標準レベルの素材。前年に続き、和訳問題 1 問、説明問題 5 問という構成であった。いずれの説明問題も該当箇所が広範囲に渡っているため、下線部の意味の理解は言うまでもなく、各パラグラフの内容理解が求められる。唯一の和訳問題である設問(5)は、構造的に難解な箇所は見られず、work through difficulties や navigating life's uncertainties, collective hope などのフレーズの処理、および動詞 fuel の意味の理解がカギとなる。	標準
III	自由英作文	人として最も恥ず べき行為とは	「人として最も恥ずべき行為」を挙げ、それについての説明と理由を求める非常にシンプルな設問。この設問では否応なく人を批判する内容を書くことになるが、なかなか「攻めた」出題であるように思われる。書くべき要件を満たすこと自体は容易だろうが、冗長な展開になることなく 80 語程度まで答案を埋めていくのには相当の工夫を要する。構想段階でどれほど綿密に内容を練り上げるかで勝負が決まるタイプの設問、と言えよう。	標準

IV	英作文	変化する現代においてあえて「変えない」ビジネスモデル	ある意味外国語学部らしい「こなれすぎた」日本語だった。下線部(1)の「縦への成長」は直前の日本語を読めば処理できる。「…が叫ばれる」が「…が重視される」といった意味に当たることは容易に判断できただろう。「難しくなりつつある」はそのままでは舌足らずであり、適切に読み換えるか、「何をするのが難しくなるか」を明示すべき。下線部(3)は情報量が多く、一つ一つをすべて訳文に反映させることにとられるより、筆者の意図が確実に伝わることを優先することが賢明であるように思われる。	標準
V	リスニング (555 words)	蜜蜂による人間社会への影響	例年通り、全て記述式の問題であった。設問(1)は設問中の beeswax という単語に注意すれば聞き取る箇所はわかりやすかったはず。設問(2)も該当箇所は特定しやすい。設問(3)は「具体的な金額を挙げて」とあるため、ピンポイントで解答できるだろう。設問(4)は該当箇所がかなり広いが、言及されている6つの内容のうち2つを答えればよいため、負担は大きくはない。設問(5)も聞き取るべき箇所は明白。全体的に平易な問題であった。	やや易

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的には外国語学部以外の学習対策と同じなので、外国語学部以外の分析シートの<学習対策>も参考にしてもらいたい。長文読解対策としては、まずは、一文一文を吟味しながら読み進めるという基本的姿勢をしっかりと獲得すること。そしてその延長線上にこそ、パラグラフごとの論旨を大きくつかむ、いわゆる速読的作業があるのだと心得てほしい。ここに至るには長期に渡る準備が必要なのは言うまでもない。英作文のレベル・傾向は外国語学部以外と同じと考えてよい。こちらもかなりの期間に渡る準備が必要となる。聞き取り問題はすべて記述式なので、英語を聞き取る能力だけでなく、聞き取った情報を迅速に適切な日本語にまとめる能力も重要である。